

令和5年度第2回太宰府市総合戦略推進委員会会議録  
(まちづくりビジョン会議)

1 開会及び閉会に関する事項

- 1 日 時 令和5年12月25日(月)  
午後3時00分開会  
午後4時50分閉会
- 2 場 所 太宰府市役所3階 庁議室

2 委員出席者

委員 長	八 尋 茂 雄
副委員 長	八 尋 和 郎
委 員	池 田 昌 太
委 員	大 西 良
委 員	小 川 祥 平
委 員	日下部 寛 行
委 員	杉 春 華
委 員	福 留 大 士
委 員	森 憲 太 郎
委 員	施 光 恒
委 員	藤 木 せ ら

3 執行部

市 長 部 局：楠田市長・原口副市長・轟総務部理事・宮原経営企画課長

4 議題

- (1) 令和5年度外部評価について

## 5 概要

### 議題（1）令和5年度外部評価について

<進行について>

- ◆まちづくりビジョンに掲げた31施策の中から、市民意識調査の重要度や施策評価などを基に、事前に4施策を委員により選定し、その4施策に対し事前質問をいただいた。
- ◆施策ごとに事務局より令和5年度施策評価（令和4年度事後評価）を基に説明を行い、併せて事前質問へ回答。その後委員より改めてご質問・ご意見をいただく。

○企業誘致、起業・創業支援、地場産業育成

<事前質問>

- ◆どのような産業を集積させたいか、どのような起業家を集めたいかを明確にすべきではないか。今後の方針は、太宰府市にとって理想的な産業構造や所得水準をどのように考えるかを基礎に整理されるべきものと思料する。

⇒企業誘致戦略書の作成を進めており、令和の都だざいふのブランドを生かした企業誘致の方針を現在検討している。さらに、太宰府天満宮の観光一極集中によるオーバーツーリズムの解消を図るべく、参道周辺以外のエリアにおける「だざいふらしさ」の創出、教育機関と連携した地場企業経営強化を行うことで、観光の分散化や地域の解決につなげていきたい。

- ◆ICT教育産業の支援は、デジタル競争力が弱い日本ではソフト面の教育に注力すべきと考える。太宰府から人材創出を目指し、地元の大学や企業等と提携して、市民対象の全世代教育から始めてはどうか。

⇒ICT教育産業への人材創出については、市内学生が先進企業の技術等との接点を持つよう、教育機関と事業者を含めた産官学連携の在り方について検討を進めていきたい。

<委員意見・提案>

- ◆人材が創出したときに太宰府市内で就職し仕事ができるデータセンターなどができるとが将来的には理想だと思うが、すぐにはできないので、太宰府で教育を受けた子供が先進のところに就職できるような、または福岡県などと連携して太宰府で教育を受けると科学的には最新の技術が身につけて仕事に就けるといったモデルがうまくできると思う。

- ◆全世代教育に対して、高齢者、あるいは高校生までなど、そのような教育に対する国からの助成金はあるのか。

⇒視点は若干違うが、高齢者の方々がスマホの操作に難儀されている方が多いというところで、スマホ教室を進めるといった施策の補助金は一部ある。太宰府市でも補助金を活用しながら、各自治会単位でスマホ教室を実施している。

<市長補足>

- ◆大学と連携し、学生が高齢者にeスポーツを教えて参加してもらおうイベントや、イーケイジャパンと連携し、子供たちに先進的な教育を夏休みや冬休みに行うなどの例もあるが、やはり数としてはまだ少ない。

- ◆五つの大学、短大があり公開講座などもされているので、そのようなところから裾野を広げて事業につながっていければと思っている。

## ○子育て・教育環境の充実

### <事前質問>

◆先生のITリテラシーを高めるための施策、教える技術をどのように高めているか。

⇒福岡県教育委員会の研修会に加え、太宰府市教育委員会主催の研修会を実施し、情報の扱いに関する理解、操作に関する能力を高めるとともに、授業における効果的なICT活用の在り方について先生に学んでいただいている。また、ICT支援員を学校に配置し、授業支援、校務支援、機器障害対応、環境整備・維持、研修等の先生への支援を行い、先生自身で様々なことを解決できるようになっていただくように取り組んでいる。

◆生徒の学習履歴や学習進捗などに関するデータをどのように活用しているか。

⇒生徒は授業の振り返りを学習支援ソフトを使用して行い、次の学習のめあてをもつ際に見直すことができる。また、いつどんな学習をしたか履歴が残るため、自分の学習状況を把握することができる。

教員も生徒の学習履歴を確認することで、学習内容、学習量、学習時間、定着度等を把握し、授業のときに活用している。

◆地域子どもの日実施自治会数が半数以上の自治会で実施となっているが、何を実施したのか、毎年継続しているのか。放課後子ども教室実施校数が増加しない原因は何か。

⇒地域子どもの日を制定している自治会では、地域子どもの日ののぼり旗を立てて、芋ほり、餅つき、ほうけんぎょう（どんど焼き）などに取り組んでいる。コロナ禍の影響もあり、毎年できていない部分はある。

放課後子ども教室は、地域住民の参画を得て、学校を核とした地域づくりを目指して活動している。運営にあたっては、地域、学校が連携しながら地域の人材やボランティアが必要となるが、少しずつ協力者が増えている。いきなり全校実施ではなくて、実施校を段階的に増やしていこうと考えている。

◆地域子どもの日実施自治会数については増加しているとあるが、自治会長が知らないこともあり本当なのか疑問。

⇒令和2年度以降、これまでに一度でも自治会として地域子どもの日を行った自治会をカウントしている。昨年も一つの自治会において趣旨に賛同していただき、地域子どもの日ののぼり旗を寄贈している。

◆児童生徒1人1台端末整備などの環境整備が完了とあるが、故障時の修理に時間がかかって子供に影響が出るため、予備機を一定数準備すべき。

⇒児童生徒用端末が故障したときには、各学校10台ほど予備機を置いているので、それを渡すようにしている。予備機の総数は各学校の10台を含め400台あるため、各校の予備機を全部貸した場合には、学校教育課から学校に渡すようにしている。昨年度の有償修理対応数は211件。

### <委員意見・提案>

◆スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを現状としてどのように配置されているのか。今後の方針としてどのような展望があるのか。

⇒スクールカウンセラーについては、県から配置されているスクールカウンセラーもいるが、それだけでは足りないため、市雇用のスクールカウンセラー1人が交替で各学校に

入っているような状況が続いている。

スクールソーシャルワーカーについては、現在3名配置している。ただ、本来であれば四つ中学校があるので、中学校ごとに1人ずつ置けたらいいとは思っているが、そこは検討が必要と思う。

◆地域子どもの日に関して、芋ほりや餅つきなどはそのまま自治会行事としてやるべきだと思うので、何のためにわざわざ旗を立てて割り込んで実施するのかなと思う。

放課後子ども教室は非常にいいことだと思う。学校を核とした地域づくりを目指しているし、学校だったら子供たちも保護者も集まりやすいので、一歩ずつボランティアの人数を確保しステップを踏んでいくのは大切なこと。放課後子ども教室に地域子どもの日に関係するメンバーの方がいると思うが、協力し合って人材の有効活用につなげてほしい。

⇒地域子どもの日は、過去社会教育委員の会で自治会を回りながらお話を伺う中で、課題として子供たちの参加がなかなか得られないということがあったため、まずは既存の事業も含めて何か旗揚げしようというところから始まっている。その中で、それぞれスポーツの習い事とかあるが、そのような団体にも協力いただき、地域子どもの日だけは地域のほうに子供たちを参加させてほしいという思いがあった。

地域子どもの日ではどちらかと言えば自治会主体となって実施していただくものと考えていたところがあり、放課後子ども教室は学校を核として進めるものと考えている。

◆国が学校部活動を学校から学校以外の民間事業者や地域のボランティア団体などに移行すべきだとした答申を出していたと思うが、太宰府市の現状はどうか。

⇒実際に学校の部活動が地域に移行しているという現状は今のところない。ただ、令和8年度以降には、土日の部活は教員は見ずに地域で見るといった方針を国が出しており、県もその方針に則っている。そのため、それに向けて少しずつ地域のクラブ活動に移行できないかと協力を得ようとしているのが現状。

◆社会生活の大半が人とのつながりというところもあるので、様々なパターンで人とのつながりを育む、生み出していくことが重要。その中で、放課後子ども教室の拡大というのは大変必要なことだと感じる。

◆児童生徒1人1台端末について、端末を配付したことで不登校の子供たちがみんなと同じように学習できるようになったのか。

⇒端末を配布したからといって不登校は解決しないし、不登校児童生徒が学習できるようになるというわけではないが、中には端末を使って先生と電話ではなく顔を見せ合って会話ができたり、学習ソフトを使用して家で自分で勉強したり、そのようなサポートができるようになった。

◆筑紫野市の小学校では、留学生が小学校に行って外国籍の子供たちをサポートするということがあるが、太宰府ではどのようなサポートをしているのか。

⇒大学生にお願いしてサポートするという実績はないが、大学からそのような支援をいただけるなら検討できると感じた。

◆ハードがあり、ソフトがあり、ただそれで不登校が解消するわけではないという指摘があって、そのとおりだと思うが、では太宰府市として具体的に何をしているのか教えてもらいたい。

⇒ただタブレットだけを渡しているのではなく、学校で使っている教材などもちゃんと渡しながらか、そしてタブレットが補助的なものになればということで使用してもらっている。フリースクール等もあって、そういう場もあるよという提供も大事だが、やはり学校に来てほしいというのが一番目標としてある。ただ、あまり無理強いするとその子にとってよくない場合もあるので、その子の状況に応じて対応は変わってくるが、実際は学校現場の教員がしっかり顔を合わせて、あるいは電話で話をしてサポートしている。

◆端末の有償修理が211件とのことだが、壊さないようにするような教育というのはしているのか。

⇒学校から上がってくる故障の原因としては、机から落ちてしまったというのが一番多い。生徒用の机は小さくて、そこにノート、教科書を出して、さらにタブレット。そうするとやはり落ちやすいというのが一番大きな故障原因になっている。そうならないようにきちんと使いましょうという指導は学校がもちろんしている。

<市長補足>

◆子供たちはいろいろな悩みを抱えていて、そういう子たちを1人でも見逃さないようにしたいという、まずは思っだけはしっかりと発する意味で、教育大綱や、子どもの条例などにメッセージとして発することも重要だと改めて感じる。

◆自治会全体、学校全体、子供、高齢者の福祉、交通的なものなど、様々な課題があるので、全体を総合的に見ながら課題を認識して、解決するような仕組みを来年度以降できないかということで、語る会みたいなものをできないかと考えている。

○交通環境の向上

<事前質問>

◆観光客にとっての交通環境と市民・住民にとっての交通環境の二軸で政策を議論すべきかと考える。両者の利便性を高めるために最適解がどのようなものなのか、国で議論されているライドシェアの実験的な取り組みなども視野に入れながら将来像を描いてほしい。また、自動車で来られる観光客に対してどのように課税できるかなども更に検討を深めてもらいたい。

⇒総合交通計画改訂の作業の中で委員の皆様から様々な知見を生かしたご意見をいただいているので、今後うまく取りまとめて最適解に導けるように努めていきたい。

また、御指摘のとおり、住まう人、訪れる人の両者の利便性向上は、重要な課題と認識している。ハード面については政庁前の道路を整備、ソフト面ではできるところからライブカメラの増設等もしているが、最終的にどのような交通体系を目指していくかという中では、既存の交通手段を最大限に活用しながらデマンド交通などの導入可能性も視野に入れ、新しい公共交通という点でライドシェアの動向等も踏まえながら検討していきたい。税については、関連部局のほうとも十分協議しながら今後調査研究をしていきたい。

◆交通環境の向上で、ハード面での取組はできるところから実施していることはよいと思う。今後はハード面での取組をどう生かすか、回遊性をどう仕向けるかが大事になってくる。そのような面でもソフト面での工夫も並行して取り組みを加速化することも必要かもしれない。

⇒回遊性向上のためのソフト面の取り組みとして、日本遺産「西の都」ふれあいウォークの開催、万葉、梅花の宴を題材とした映画の制作など令和万葉のPRを実施した。

今年度は日本遺産「西の都」パネル展の開催、四王子山三十三石仏を題材としたガイドつき体験コースの造成、インバウンド向けの観光体験商品造成事業への着手などを進めている。現在、観光推進基本計画を策定協議会の中で議論しているので、今後のソフト面の取組についてもさらに検討していきたい。

◆太宰府駅ロータリーに乗り入れとなっている「旅人」の発着場所を太宰府天満宮が所有している観光バスの駐車場への移設を検討してはどうか。

⇒土地所有者の意向、交通事業者の運行計画、運行路線が変わることにより影響を受ける沿線の関係者、地元自治会等とも念入りの協議が必要になると考えられるので、メリット、デメリットを精査して、関係者からの意見聴取等も行いながら検討したい。

◆Outputの指標として市内シェアサイクルポート数のほか、まほろば号利用率を追加してはどうか。

⇒まほろば号は、現在市内8ルートを運行しており、公共交通の空白地域や、高齢者、障害者等の外出支援等を目的としている。また、市民だけではなく、観光客の方も利用されている交通手段でもあります。Outputの指標としてのまほろば号の利用率につきましては、今後追加について検討していきたい。

◆慢性的な交通渋滞の解消には、天満宮周辺に集中している駐車場の分散化が必要で、そのためには遊休地・市有地を駐車場として利活用することが重要である。また、主要観光ルートの交通手段をマイカーからまほろば号や自転車へ変えていく施策が必要である。今後数年間は中国からのインバウンドが期待できないと思われるので、政庁前の大型バス専用駐車場を一般駐車場に改変し、マイカーからまほろば号への乗り継ぎ用としての利用を考えたい。また、マイカー駐車料金は天満宮周辺と同等として、駐車後はまほろば号利用は無料としたい。

⇒政庁前駐車場はバス専用駐車場だが、ここの利活用については一般駐車場への改変も含めて、今後の在り方について現在検討を進めている。また、市内回遊性向上を図るため、二次交通への利用転換に併せて、自動車流入の抑制は必要なことと認識している。当初、大宰府政庁跡見学のためのバス駐車場がなかったことで整備した駐車場だが、今後の利用状況も分析しながら、現在策定中の観光推進基本計画や大宰府跡整備計画との整合を図りつつ、更なる利活用の方法や公共交通等の利用促進なども含めて検討を進めたい。

<委員意見・提案>

◆交通のライブカメラについて、もし混んでいたときにどのようなルートがあるのかというのを併せて明示してもらえれば良いと思う。

◆レンタサイクルは太宰府だけではなく、二日市とかまで広域にし、途中で歴史的なところをめぐるような仕掛けにすると、渋滞の緩和だったり観光スポット整備にもつながるかと思う。

◆シェアサイクルはどのような形で導入・展開をしていくのか。事業費の総コストを大体市からの負担金と事業収入とポートの広告などの事業付帯収入などで賄っていくと思うが、市の負担金がそれ以上の赤字を補填しないといけないみたいな状態になってくると非常にきついと思うので、太宰府がどのようにシェアサイクルの事業を展開しようとし

ているのか教えてほしい。

⇒ポートの設置やいろいろなことの条件が重なりシェアサイクルについては実現できていないが、少し広域で稼働しないといけないということが採算性の面からも明らかになっている。民間の方の活力も検討しながら、広域のポートもできるかどうかということも念頭に置いて観光推進基本計画や交通体系の計画に盛り込んでいきたいと考えている。現在行っているレンタサイクル事業についてもどのような方向がいいのか、それをシェアサイクルにできるのか、まだ調査段階ではあるが慎重に進めていきたいと思う。

◆シェアサイクルの事業は採算を合わせに行くのが極めて難しい。令和6年度の目標ポート数が50だが、最初から50のポート数を目指すのは相当大掛かりな事業になる。事業としては簡単な事業ではないというところを理解したうえで、事業計画や採算のシミュレーションについてシビアに数字をはじいて、市の財政にマイナスの影響や禍根を残さないようにしてほしい。

◆現在の交通のライブカメラを見てくださいという形は不親切な気がする。基本的には渋滞予測や需要予測がされて、そして注意喚起がされて交通渋滞が緩和されていくようなイメージがある。よりシステム化されていくべきではないかと思うが、どのように考えているのか。

⇒これまで行ってきたのはライブカメラの映像と駐車場の満空情報を併せて情報を配信してきたが、昨年から国土交通省、福岡国道事務所の協力を得て、ETCデータを活用した太宰府の周辺の高速度道路のインターチェンジから県道の周辺までの所要時間のデータを活用させてもらえるようになった。そのようなデータを活用しながら今後更に充実させていきたいと考えている。

## ○市街地の活性化

### <事前質問>

◆西鉄五条駅前の公共施設をPRE（公的不動産、公有財産）と絡め、官民連携での開発を検討すべき。また、商業のみならず、図書館や子育て支援などの機能を付与することを検討してはどうか。

⇒立地適正化計画の策定検討を現在行っており、この中で市民意識調査との整合、（ビジョン会議）ニュー太宰府構想グループからいただいたご意見を参考に、また、新たに計画策定に伴い市内18課で構成している市内の委員会の中でも検討し、都市計画審議会を開催しながら、中心とする拠点の在り方をさらに詰めていきたいと考えている。

実際にどのような機能を拠点に求めていくかという点については、立地適正化計画の中で都市機能の誘導のエリアや、施設等も今後具体化していくので、その際に商業利用のみならず図書館、また、子育て機能など、様々な機能を含めて多世代の交流なども視野に入れたにぎわいづくりといったものも含めて検討を深めていきたい。

◆太宰府小学校の近くに遊具がある遊べる公園がなく、スポーツ公園など遠くまで行かないと子供が遊べる場所がないので、近隣にも造ってほしい。

⇒公園の整備については地元自治会からの要望などを含めて整備した経緯はあるが、太宰府小学校エリアは早くから市街地が成熟化しているため公園が少なくなっている。団地開発などであれば一定面積以上には公園を整備する義務付けがあるが、そのような点で

どうしても少ない現状はあるのかなと思っている。そのような状況を踏まえながら、今後も考えていきたい。

- ◆私は徒歩で市役所等に移動しているが、よくよく考えると五条駅から市役所、図書館などが非常に近いところにあると思う。車で行くとぐるっと回らないといけないが、歩いていくと意外と近いので、今から施策を検討するにあたっては、歩いて移動すると実は意外と施設が近くに固まっているということ認識したうえで検討するとよいかと思う。
- ◆五条駅周辺の商店街があると思うが、商店街や住民の方々のご意見などは集約しているのか。

⇒直接的ではないが、商店街の方やもともとスーパーなども入っていたので、そのような会社のご意見などはいただいたことがある。

- ◆エリアによっては相当高齢化も進んでいると考えており、その人たちがスーパーなどがなくなりどのようなことを希望されているのかなど、図書館や子育て支援などのニーズが本当にあるかどうかも含めていろいろな住民の方のご意見をもっと聞いたほうがよい気がする。

#### <総括>

- ◆議論を通じて具体的な実行対策を打つのが非常に難しい段階に来ており、今後の展開についても一筋縄ではいかないのかなと感じた。
- ◆そのような中で、それぞれの担当部門が真剣に取り組み一部成果も上がっているということで一定の評価をしたいと思う。ただ、大半の施策は一つの部門だけで解決するものではなく、二つ以上の部門に関連するケースが多いので、庁内でも十分にすり合わせを進めてほしい。
- ◆今後金利が上がって行って市債の利払いが趨勢的に増大していくと思う。そのような懸念があるので、歳出削減は厳しく続けてほしい。